

協働ニュース

第7号

協働の事例紹介



全庁で取り組まれている協働事例全体を見てみると、事業の普及啓発で市民団体や企業と協働するものが多い印象でした。今回は協働事例の中で、担当者が良いと思った事例について紹介します。

レシピブック「野菜限界突破レシピ neo」の発行・配布

健康増進課

相模原市

×

町田市

×

味の素
株式会社

×

株式会社
三和

旬の野菜を使用したレシピブックを作成し、スーパー三和全店舗および相模原市、町田市の公共施設、観光協会、農産物直売所、大学等にて配布を行いました。

市民の生活圏が重なり、「野菜摂取不足」という共通の課題を持つ相模原市・町田市が味の素(株)とタッグを組み“野菜の限界を超えたおいしさ”を実現するメニューを考案しました。さらに、両市に多くの店舗を構える(株)三和との協働により、野菜売り場にてレシピブックを配布しました。これにより、例年の1.5倍を売り上げた野菜もあり、市民の野菜への関心を高め、野菜の摂取量増加に向けた効果的にアプローチできました。



さがみはら市民活動サポートセンター運営事業

市民協働推進課

相模原市

×

NPO法人
市民会議

相模原市で活動するNPO等市民活動団体の活動を包括的にサポートする施設の運営をNPO法人市民会議と行っています。

けやき会館3階に所在する当センターでは市民活動を支援する拠点として、情報の発信や活動の場の提供、相談の受付、市民活動活性化のための講座等を実施しています。平成18年から協働運営が開始され、現在も約360団体の活動を支援しています。日々の運営は市民会議が行い、庁内各課との調整やイベント開催等、話し合いを重ねながら協働で運営しています。

毎年11月には「さがみはら市民活動フェスタ」を実施しており、多くの来場者に市民活動団体を知ってもらおうきっかけ作りをしています。今年度は11月5日(日)に淵野辺公園で開催されます。

各種模擬店の出店や、ステージ発表を各団体が行う楽しいイベントです。ご家族ご友人とぜひ足を運んでください。



協働事業提案制度で各課の課題解決してみませんか？

・協働事業提案制度とは？

公共的課題を市民と行政が協働して解決するもの（最大3年）

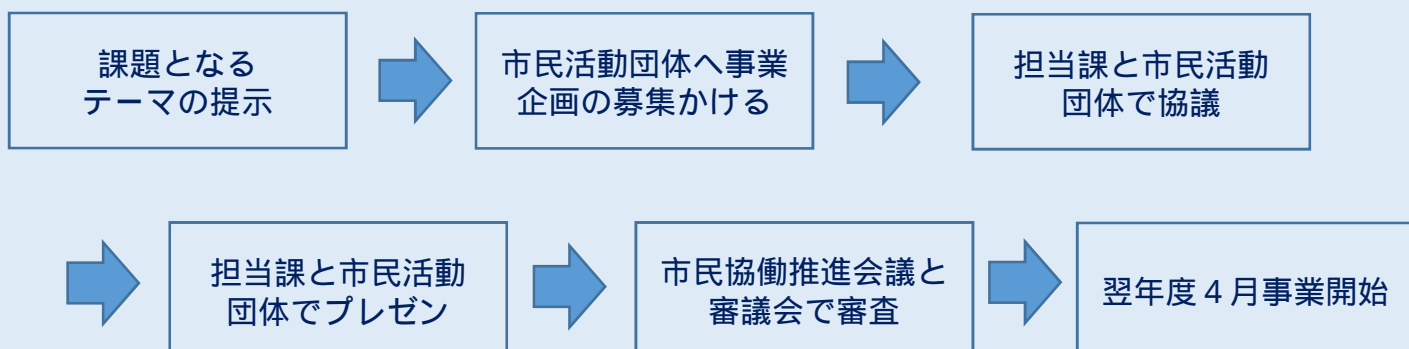
・協働事業のメリットは？

市民活動団体のノウハウを活かし、市民ニーズに対応した課題解決図ることが出来ます

・どんな流れで事業が始まるの？（行政提案）



アンペロメリックスのイラスト



・どんな事業を想定しているの？

過去の採択事業

オープンデータ活用促進事業

さがみはらIT協同組合×DX推進課

オープンデータの利活用促進のため、市民に役立つオープンデータのニーズを掘り起こし、目に見えるサービス・アプリケーションの活用事例づくりを行い、オープンデータ活用実績として周知を行う。

若者向けメンタルヘルス対策事業

桜美林大学×精神保健福祉課

若者を対象に、ストレス等への対処法に関する講座を開催する。同時にコミュニケーション・スキルの向上を図り、お互いが相談者になれるよう力をつけさせる。

事業を実施する場合、予算要求のみ各事業担当課に行っていただき、予算化にあたってのヒアリング等、財政課との調整は一括して市民協働推進課が行います。検討している事業がございましたら、お気軽にご相談ください。

研修のお知らせ

職員向け市民協働推進研修を5年ぶりに開催します。

日時 令和5年10月6日 講師 法政大学 樋口明彦教授
14:30～16:00
場所 産業会館大研修室
テーマ ・相模原市における協働の経過及び位置づけ
・協働の前提条件
市民となる子ども若者の視点から行政を考える

会場は120人定員です。出席必須職員は60人程なので、協働に興味がある方はぜひご参加ください。

樋口先生の講義は大変分かりやすく、聞いていて自分に入ってくるものです。

申込期限は令和5年9月29日(金)としていますが、個別にご連絡いただければ過ぎていても大丈夫です。

編集後記

今年度1号目です。担当者が代わり、初めて作成しました。どれくらいの方がこの「協働ニュース」をご覧になっているのでしょうか。私は異動して市民協働推進課に来るまで存在を知りませんでした。全庁での理解促進はまだだと痛感しています。相模原市に協働の考え方が浸透していくよう、工夫してやっていきたいと思えます。